

# 夜須小学校に

# 「湯川秀樹先生像」

## があるのはご存じですか？

■夜須小学校の玄関右脇には、日本人で初めてノーベル賞を受賞した物理学者、湯川秀樹の胸像が置かれています。なぜ香南市の出身ではない歴史人物の胸像があるのでしょうか？  
 長年、夜須小学校と湯川秀樹の関わりを調べている、夜須町在住の清藤禮次郎さんに資料の提供をいただき、今回はこの胸像の謎に迫ってみました。

広報編集委員 担当／宮崎文敬

### 夜須小学校にある「湯川秀樹先生像」

1947年、GHQは日本の教育を改革する指令を出し、保護者と教職員で作られる団体「PTA」を設立して、新しい教育を推進する役目を与えました。夜須小学校でもPTAによる教育活動が行われ、湯川秀樹先生像はその一環で建てられました。夜須小学校のPTA設立と同年の1949年にノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹が新たな偉人にふさわしいと本人の承諾の元、当時のPTA会長が発起人となり寄付を集め、夜須町出身の彫刻家・浜口青果が高さ1尺6寸(約60cm)の胸像を作りました。戦後まもなく、敗戦で皆の気持ちが打ちひしがれている

中、日本で初めてノーベル賞を受賞した湯川さんを通して夢と希望を与えたい、という意味も込められていたのではないかと思います。夜須小学校に作られた胸像は日本でも初めて作られた湯川秀樹像で、生前の湯川さんが除幕に立ち会った唯一の胸像となりました。

### 湯川秀樹先生本人も出席した除幕式

1954年3月22日、完成した胸像の除幕式に、湯川秀樹・スミ夫妻も出席しました。式典には夜須の小学校の生徒約900人と町民約300人が集まりました。湯川さんは、小学生代表の高橋南海男さんと浜田

### 湯川秀樹先生像の現在と将来

胸像が建立されて今年で68年になりました。建立当時の湯川さんの言葉を、「なんとなく、物理は面白いと思った」と語っていた清藤さんの義理の弟さんも、後に物理の道に進んで湯川さんの教え子となり、学校の校長先生になったそうです。しかし、60年以上の歳月は記憶の風化を加速させ、胸像のことを知る人も少なくなりました。取材のため3月に夜須小学校を訪れると、小学生たちが校庭で遊ぶ休み時間で、湯川さんの胸像は小学生たちを見守るようにひっそりと玄関先に置かれ、成長した松の木陰に隠れて佇んでいました。その日は、資料を提供してくれた清藤禮次郎さんと、除幕式に生徒代表として立ち会った浜田英子さんにも同行していただき、当時の思い出を語ってもらいました。

- 1 夜須小学校の玄関前にある湯川秀樹先生像
- 2 除幕式に出席した湯川秀樹・スミ夫妻
- 3 湯川夫妻は、生徒代表 高橋南海男さんと浜田(旧姓:春樹)英子さんとともに除幕を行いました

浜田英子さんは、「当時の私は湯川さんより、奥さんのスミさんの美しさに目を奪われていました」と笑いを交えながら話してくれ、清藤禮次郎さんは、「子どもたちには湯川さんのように、将来世の中の役に立つ人

になつてほしい」と胸像を継承する必要性を熱心に語ってくれました。

湯川秀樹先生像を語り継ぐために、教え子の1人である高知県立大学名誉教授の大久保茂男さんが講演する計画があったそうですが、コロナ禍で未だに実現できていません。

取材を終えて、先人のたゆまぬ努力によって、歴史に残る偉人がこの香南市を訪れ、足跡を残していたことを詳しく知ることができました。この記事を読み、湯川秀樹先生像に興味を持った方はぜひ、偉人の足跡を語り継ぐために、私たちに何ができるかを考えていただきたいと思います。



▲お話を聞かせてもらった清藤さん(写真右)と浜田さん(写真左)

参考  
 ■論文、「湯川秀樹先生のはじめての胸像は何故高知に建てられたか」  
 大阪大学核物理研究センター  
 大久保茂男  
 ■高知新聞 ■野市町史

## 湯川秀樹先生と高知の意外なつながり

一見すると、縁もゆかりもない高知県に、わざわざ除幕式のために湯川さんが来県したように見えますが、実は湯川さんが物理学を教わった物理学者の森総之助は香南市野市町の出身で、湯川さんが在学した旧制第三高等学校(現在の京都大学総合人間学部および岡山大学医学部)の6代目校長でもありました。来県する約1年前に森総之助は、京都にある湯川さんの自宅近くの邸宅で亡くなっており、米国に滞在して葬儀に参列できなかった湯川さんは後に、「恩師(故・森総之助)に物理の手ほどきを受けたので、高知は特に懐かしい」と語り、叶わなかった恩師との対面の意味合いも込めて来県したのかもしれない。



森総之助